



岸田首相 政権投げ出し

国民の怒りが追い詰めた

自民党政治 そのものの転換を

小池晃書記局長が記者会見

日本共産党

日本共産党の小池晃書記局長は14日、国会内で記者会見し、岸田文雄首相が自民党総裁選に立候補しないと表明したことについて「国民の怒りの広がりによって追い詰められた結果だ」と述べました。

小池氏は、岸田首相が同日の記者会見で「自民党が変わることを示す最もわかりやすい最初の一步は、私が身を引くこと」と述べたことをあげ、自ら追い詰められたと認めるものだと指摘しました。

また、岸田首相の「大きな成果を上げることができた」との発言について「岸田政権の下で問題となってきた裏金問題、経済無策、外交不在の大軍拡、改憲策動。どれもこれも最悪のものばかりであり、みな自民党ぐるみでやってきたことだ」と批判。裏金問題について「組織の長として責任をとる」とした岸田首相の発言をあげ「自民党全体が責任をとらなければならない問題だ」と指摘しました。

その上で小池氏は「岸田首相は“自らが身を引くことで自民党が変わることを示す”と述べたが、自民党の中での政権のたらいまわしでは何も変わらない。自民党政治そのものを終わらせなければならない

い。解散総選挙で日本共産党を躍進させ、市民と野党の共闘の再構築をはかるために全力をあげたい」と強調しました。

記者から、安全保障と核廃絶についての岸田政権の評価を問われ、小池氏は「安倍政権が集団的自衛権行使容認の閣議決定を行い、従来の憲法解釈を百八十度変えた。岸田政権がやったことはその具体的な実行だ」と指摘。敵基地攻撃能力の保有や、岸田政権のもとで2・5兆円も軍事費を増やす大軍拡を強行する一方、「中国などを含めた北東アジアでの平和をどうつくるかの外交努力はほとんど見られなかった」と述べました。

また、「『広島出身の総理』と繰り返しながら、最後まで核兵器禁止条約に参加せず、締約国会議へのオブザーバー参加すら拒否した」と批判。「被爆者の期待を裏切り続けたのではないか」と話しました。



しんぶん赤旗電子版
3週間無料キャンペーン中！





田村委員長と泉・立民代表が会談

総選挙での 「連携と力合わせ」で合意

日本共産党・田村智子委員長が記者会見

日本共産党の田村智子委員長と立憲民主党の泉健太代表は19日、東京都内で会談し、自民党を倒すため、来たるべき総選挙で「連携と力合わせ」をすることで合意しました。会談には共産党の小池晃書記局長と、立民の岡田克也幹事長が同席しました。

会談では、泉氏がこの間提唱している「ミッション型内閣」（政策ごとに賛同する野党が連携する内閣）について説明。さらに泉、田村両氏は、岸田文雄首相が事実上の退陣表明を行ったことなどについても、さまざまな意見交換を行いました。そして、自民党を倒すために来たるべき総選挙で「連携と力合わせ」をすることで合意しました。

その上で、総選挙のたたかい方について、田村氏は昨年12月の市民連合との間での5項目の共通政

策の基本合意後、自民党の裏金事件で世論の怒りが沸騰し、自民党政治がさらに追い詰められている状況へと情勢が展開していると指摘。「共通政策をより豊かで魅力あるものにしていく必要がある」と問題提起しました。

さらに田村氏は、選挙協力について、共産党が一方向的に候補者を下ろすのではなく、対等・平等、相互尊重が必要だと強調。衆院補選や都知事選、都議補選の経験も踏まえて、「連携する上で、リスペクトの関係が非常に重要だ」と提起しました。

会談後、国会内で記者会見した田村氏は「日本共産党としては、自民党政治を終わらせていく大きなたたかいができるよう、全力をつくしていきたい」と表明しました。



衆議院議員
もとむら 伸子



党副委員長
すやま 初美



衆議院選挙 制度解説（記載例）

比例は日本共産党と政党名で

比例代表選挙で候補者名を書くと無効になります

JCP サポーター@あいち
公式 LINE に
ご登録ください

